

報道各位

Chara、BONNIE PINK、MINMI
3組の女性アーティストのスペシャルライブに会場が熱狂！
『TOKYO FM & JFN present EARTH×HEART LIVE 2019』
この模様を TOKYO FM/JFN 全国 38 局ネットにてオンエア！
2019年4月22日(月)19:00～21:00

TOKYO FMをはじめとするJFN(全国FM放送協議会)加盟38社では、ステーションメッセージである「アースコンシャス～地球を愛し、感じる心」、「ヒューマンコンシャス～生命を愛し、つながる心」の理念を象徴するコンサート『TOKYO FM&JFN present EARTH×HEART(アース・バイ・ハート)LIVE 2019』を、2019年4月15日(月)、TOKYO DOME CITY HALLで開催致しました。出演は、Chara、BONNIE PINK、MINMI。このライブ模様の一部を、TOKYO FMをはじめとするJFN全国38局ネットで、アースデーである4月22日(月)19:00～21:00に、特別番組『TOKYO FM&JFN present EARTH×HEART LIVE 2019～SONG OF MOTHER EARTH～』として放送いたします。どうぞお楽しみに。

◆地球の未来へ…アーティストとして、母として輝く3組のスペシャルライブ！



世界中の人と一緒に、私たちの暮らす地球に想いを馳せて行動する日…「アースデー」に特別番組としてお届けしている『TOKYO FM&JFN present EARTH×HEART LIVE』。



1990年の第1回から30周年となる今年は、4月15日(月)にTOKYO DOME CITY HALLにて開催。Chara、BONNIE PINK、MINMI、母として、シンガーとして輝く女性アーティスト3組が“SONG OF MOTHER EARTH～母なる地球を繋ぐ歌～”をテーマに、地球の未来を想う、一夜限りのスペシャルライブをお届けしました。

◀終演後の集合写真
左から BONNIE PINK、Chara、MINMI

◆BONNIE PINK「地球の未来が、令和という時代が、たくましくピースフルであるように。」



▲BONNIE PINK



ライブ1人目は、BONNIE PINKが登場し、「So Wonderful」、「Many Moons Ago」など全6曲を披露。MCでは、「今日は、3人の母が張り切って歌いに来ています。私も2年前、新米母ちゃんデビューしました。母は強いといいますが、地球もたくましくあってくれないと困るなって思っています。育児に追われていると、こんな時にしか地球のこと、社会のこと考えることがないかもしれませんが、堅苦しいことは抜きに、いい音楽を共有して、ちょっと先の未来を想う日になればいいな。母なる地球のために歌います。」と、メッセージしたあと、「Tiger Lily」を披露。そして、「A Perfect Sky」で会場を一気に盛り上げ、「最後の曲は、この曲を歌うと、原点に帰れる。令和という時代が、たくましく、ピースフルになるように歌ってみようかな」と、「Here I Am」を披露し、ステージを終えました。

【BONNIE PINK セットリスト】

- M1 So Wonderful
- M2 Many Moons Ago
- M3 坂道
- M4 Tiger Lily
- M5 A Perfect Sky
- M6 Here I Am

◆親子で共演！MINMI「“マザーアース 森里川海のうた”、子どもと一緒に歌うたいです。」



▲MINMI



▲MINMIと次男の共演

2人目に登場したのは、MINMI。アカペラでの「シャナナ☆」を歌ってから会場に登場し、「Lotta Love」、「さくら」を披露すると、客席では飛んだり跳ねたりと盛り上がります。途中で照明を落とし、「東京に星空がないのではなく、普段必要な電気を消すと素晴らしい星空が広がっている。東京の真ん中で手作りプラネタリウムで歌いたい」と、客席からの携帯のライトで「アイラ」を披露。そして、「今、環境省で、自然とともに生きて行こうという価値

観のプロジェクトに関わっています。経済的リーダーとは違う、日本の知恵を伝えていこうというチーム、『マザーアース』。この EARTH×HEART LIVE のサブタイトルでもあるので、これからの生き方を感じられるライブにしたい。アンバサダーとしてプロジェクトに関わって、「マザーアース 森里川海」という歌を作ったので、今日はコーラスにも参加している次男と一緒にうたいます。」と、次男のあいら君がキーボードを弾く MINMI の隣に座り、親子で共演。会場からは盛大な拍手が沸き起こりました。最後は、「私の大好きな BONNIE PINK さんと Chara さんとステージに立てて嬉しい！ 今日の出会いがハッピーに繋がっていると思います！」と「シャナナ☆」を披露しました。

【MINMI セットリスト】

- M1 シャナナ☆(アカペラ)
- M2 Lotta Love
- M3 さくら
- M4 四季ノ唄
- M5 If Ain't Got You [Alicia Keys カバー]
- M6 アイラ
- M7 MOTHER EARTH ~森里川海のうた~
- M8 シャナナ☆

◆特別出演の BASI(韻シスト)と共演！ Chara「満開のミモザをイメージして来ました」



▲(左)BASIとCharaの共演



▲Chara

3人目はChara。まずステージに、BASI(韻シスト)が登場し、「Say Chara！」とCharaを呼び込み会場を盛り上げました。Charaが1曲目の「Junior Sweet」を歌うと、会場は一気にCharaムードに。MCでは、「お腹すいちゃったよね。おいしいものを食べてください。」と会場の笑いを誘い、「Sweet Night Fever」をBASIと共演。共演後に、「スペシャルなゲストBASIでした。春が好きなCharaです。春最高です。中庭にミモザがあるんだけど、満開をイメージしました」とイエローの装いを紹介。そして、「Charaちゃんにも子どもが2人いて、下の子が19歳になりました。息子が生まれた時に書いた曲があって、大切なものは築き上げていくものになって。子どもにも、大切なことに気付く子になってほしいなと。今日のイベントもきっとそう。」と、「大切にきずくもの」をまるで家のリビングで演奏するように座って披露。最後は、「笑顔を見せて～」と、「Swallow Butterfly～あいのうた～」、「やさしい気持ち」を披露し、会場が優しい一体感に包まれ、拍手がやまぬ中、EARTH×HEART LIVE2018は終演を迎えました。

【Chara セットリスト】

- M1 Junior Sweet
- M2 Cat
- M3 Sweet Night Fever [Chara×BASI]
- M4 大切にきずくもの
- M5 Swallowtail Butterfly ~あいのうた~
- M6 やさしい気持ち

◆アヒル隊長も登場！環境に優しい、新しいストーリーのアイデアをトークパートで実践！



トークパートでは、ライブ MC として TOKYO FM/JFN『SCHOOL OF LOCK!』と一やま校長と、TOKYO FM『いのちの森』パーソナリティの高橋万理恵が登場。30周年を迎えた『EARTH×HEART LIVE』のアースデーコンサートとして開催された第1回の音源を特別に紹介し、当時から30年続いている地球環境へのメッセージへと結びます。また、海のゴミ、マイクロプラスチックの問題に触れ、事前にラジオを通じて募集したプラスチックのストーリーに変わるアイデアを実践披露。身近でユニークな話題で紹介することで、今、地球で起きている問題についてメッセージしました。そして、特別ゲストとして、環境省から「アヒル隊長」も登場。国連で採択された、持続可能な開発目標「SDGs」から、身近にできる事例を紹介し、地球の未来へ、わたしたちが身近にできることの啓発を行いました。

会場では森づくりため、「鎮守の森のプロジェクト」への募金を実施し 90,693 円が寄せられました。みなさまからの募金はライブの利益の一部とともに「鎮守の森のプロジェクト」へ寄付させていただきます。

このライブの様子は、TOKYO FM/JFN 全国 38 局ネットで 4 月 22 日(月)19:00~21:00 に特別番組『TOKYO FM&JFN present EARTH×HEART LIVE 2019~SONG OF MOTHER EARTH~』として放送いたします。どうぞお楽しみに。

写真：樋口 隆宏(TOKYOTRAIN)

【イベント概要】

タイトル：「TOKYO FM&JFN present EARTH×HEART LIVE 2019」

日時：2019年4月15日(月) 開場 18:00 / 開演 19:00

会場：TOKYO DOME CITY HALL 出演：Chara/BONNIE PINK/MINMI

料金：指定席 6,500 円(税込・ドリンク代不要、3歳未満は膝上にて無料)

枚数限定親子席 9,500 円(保護者1名様と小学生以下のお子様1名様のペアチケット)

※ライブの利益の一部を「鎮守の森のプロジェクト」への寄付とさせていただきます

主催：TOKYO FM/JFN 企画制作：TOKYO FM/JFN 制作協力：サンライズプロモーション東京

ホームページ：<https://www.tfm.co.jp/ehl2019>

【鎮守の森のプロジェクトとは】

東日本大震災では、神社を囲む鎮守の森が、防災林として大きな役割を果たしました。深く根をはった木々が津波の勢いを和らげ、被害を最小限に防いでくれたのです。これは、伝え残さなくてはならない知恵だと思います。ドングリを拾って苗木にし、根が張りやすいよう柔らかい盛り土の上に植え、森づくりをしていきます。土地に適した種類の木を植えると苗木は1年で1mほど成長し、やがて立派な森になります。鎮守の森のプロジェクトでは、このような「災害からいのちを守る森」づくりを沢山のボランティアの方々と行っています。<http://morinoproject.com/>

【「つなげよう、支えよう森里川海」プロジェクトとは】



きれいな空気、豊かな水、美味しい食べ物や資材をはじめ、防災や減災、生活文化やレクリエーションなど、私たちの暮らしは「森」「里」「川」「海」のつながりを生み出す自然の恵みに支えられています。このプロジェクトでは、森里川海を豊かに保ち、その恵みを活かした地域づくりを進めるとともに、これを支える地球と地域にやさしいライフスタイルの呼びかけを行っています。

<http://www.env.go.jp/nature/morisatokawaumi/index.html>

【出演アーティスト PROFILE】

Chara



1991年9月シングル『Heaven』でデビュー。一貫して「愛」をテーマに曲を創り、歌い続けている日本で唯一無二の女性アーティストである。オリジナリティ溢れる楽曲と独特な存在感により人気を得て、1992年には日本レコード大賞ポップ・ロック部門のアルバム・ニューアーティスト賞を受賞。1996年には、女優として出演した岩井俊二監督の映画『スワロウテイル』が公開され、劇中バンド YEN TOWN BAND のボーカルとして参加し制作されたテーマソング「Swallowtail Butterfly ~あいのうた~」は大ヒットを記録。この頃から、ライフスタイルをも含めた“新しい女性像”としての支持も獲得し、1997年のアルバム「Junior Sweet」は100万枚を超えるセールスを記録する。2014年には、ファッション業界でも先駆的な取り組みが話題となっているクロスカンパニー社のグローバル新ブランド「KOE」のブランドアンバサダーに愛娘 SUMIRE と共に抜擢。Chara=「音楽そのもの」として、その才能を余す所なく創作し続けている。2015年秋、伝説のバンド「Yen Town Band」が復活、ライブ・楽曲制作が始動。2016年9月にデビュー25周年を迎えた。2017年25周年記念アルバム「Sympathy」を発表。2017年12月初のDJイベントを企画し、DJ Charaとしてのキャリアをスタートする。2018年1月、50歳の誕生日を記念して、歴代のバンドメンバーと共に2日間のスペシャルLIVEを開催。同年、全国TOUR(全6公演)や2年振りとなるブルーノートツアー(全16公演)も開催し、更に、自身初となる絵本(CD付)『LITTLE HEARTBEAT』、オリジナルアルバム『Baby Bump』を発売。2019年1月より全国ツアーを開催。デビュー27周年を迎えてもなお、音楽と共に生き、積極的に活動している。

<https://charaweb.net/>

BONNIE PINK(ボニー・ピンク)



Singer/Song Writer

1995年アルバム「BLUE JAM」でデビュー。

そのアルバムからリカットした「オレンジ」は全国38カ所のFMヘビーローテーションとなり、注目を集める。

1997年アルバム「Heaven's Kitchen」では世界的なプロデューサー/トニー・ヨハンソンの参加が話題に。国内外のミュージシャンと積極的に交流しつつ作品を制作。2006年リリースのシングル「A

Perfect Sky」とベスト盤「Every Single Day」が大ヒット。その後もオリジナル・アルバムの数多くの楽曲はドラマや映画・CMに起用され、その歌唱力と作詞/作曲センスは幅広い世代から注目を集め続けている。

<http://www.bonniepink.jp/>

MINMI



大阪府出身。シンガーソングライター。幼少からピアノを弾き始め、96年頃から大阪のレゲエやHIPHOPのクラブで歌い始める。2002年8月に1stシングル「The Perfect Vision」が売り上げ50万枚という快挙。また、夏フェスの女王と称され2015年はフェス最多出演女性アーティストとなった。歌手活動だけでなく新時代を切りひらく女性として、幅広い世代から支持されており、ファッションや発信するメッセージでも多くの女性に影響を与えている。2018年5月23日約2年ぶりのオリジナルアルバム「Identity」をリリース。

<http://minmi.jp/>

◆EARTH × HEART LIVEとは

TOKYO FM と JFN が取り組む「アースコンシャス(地球を愛し、感じる心)、ヒューマンコンシャス(生命を愛し、つながる心)」の理念に基づき、1990年より毎年、国内外のアーティストが地球への愛を歌い上げる一夜限りのライブを開催してきました。地球環境保全のメッセージを、国境を越える音楽にのせて、世界の国々に発信しています。



【EARTH × HEART LIVE の歴史】

TOKYO FM が開局 20 周年を迎えた 1990 年。社の理念を「世界の若者との感動と共感のネットワーク」を創ることと定め、その具体的なステーション・メッセージとしてスタートさせたキャンペーンが「アースコンシャス～地球を愛し、感じる心」です。その象徴イベントとして毎年、4月22日<アースデー>に、地球環境の保護と保全を呼びかける世界中継コンサートを開催してまいりました。

1990年の第1回は「We Love music、We Love the Earth」というコンサートタイトルで、渡辺貞夫とブラジル・プロジェクトによるライブの様様を、世界のラジオ局に生中継で放送しました。当時、“エコノミックアニマル”と揶揄されていた日本から、初めて環境保全メッセージが発信され、世界各地から5000通もの共感のFAXが届きました。

○イギリス/S. A. ウィットビーさん。

「平和で調和に満ちた地球環境を実現しようとする日本の努力は素晴らしい。欧米では、日本人は飽くなき経済活動だけで、世界の問題に真剣に取り組もうという姿勢は殆ど知られていません。」

○モスクワ/イーラ・ジトコフスカヤさん

「人間が自然に対して、地球に対して、また命に対して罪を犯すことを許してはなりません。

ともに歌うこと、それは、魂を目覚めさせる、まず第一歩だと感じました。」

2011年3月11日、未曾有の被害をもたらした東日本大震災が発生しました。

これを受けて、「アースコンシャス」とともに、もうひとつの企業理念である“ヒューマンコンシャス～生命(いのち)を愛し、つながる心”を加えて、コンサートタイトルを「EARTH × HEART(アース・バイ・ハート)LIVE」と改称しました。かけがえのない地球と、地球に生きるあらゆる生命を慈しむ心を持ち、潤いのある社会を目指そうというメッセージを発信しています。

【過去の出演アーティスト】

渡辺貞夫、ジェイムス・テイラー、リー・リトナーらブラジル・プロジェクト(1990)、坂本龍一とユッサー・ン・ドゥール(1991)、久保田利伸とキャロン・ウィーラー(1992)、TOSHIとジャニス・イアン(1993)、サンタナとオルケスタ・デ・ラ・ルス(1994)、ユーログループ、小室哲哉とアース・ウィンド&ファイアー(1995)、ドゥービー・ブラザーズと玉置浩二(1996)、エターナルとMAX(1997)、ダリル・ホール&ジョン・オーツとシング・ライク・トーキング(1998)、ドリームズ・カム・トゥルー(1999)、杏子、山崎まさよし、スガシカオ、COIL(2000)、19、hitomi、忌野清志郎(2001)、CHAGE & ASKA、BoA、倅田來未、INSPI、山崎まさよし(2002)、忌野清志郎、佐野元春、及川光博、夏川りみ(2003)、今井美樹、大貫妙子、小坂忠、佐野元春、高野寛、チエン・ミン、CHARA、bird、ハナレグミ、松任谷由実、森山良子、矢野顕子(2004)、宮沢和史 with Catia、Diana Arbenina、Tomek Makowiecki、東京スカパラダイスオーケストラ、一青窈(2005)、倉木麻衣(2006)、m-flo、RAG FAIR、加藤ミリヤ、mink、大塚 愛(2007)、絢香、BONNIE PINK、ダニエル・パウター(2008)、絢香(2009)、東京スカパラダイスオーケストラ、山崎まさよし、AKB48、amin(2010)、今井美樹、植村花菜、ゴスペラーズ、藤井フミヤ(2011)、フィッシュマンズ、サカナクション(2012)、Mayday、flumpool(2013)、ASIAN KUNG-FU GENERATION、STRAIGHTENER、Nell、Tizzy Bac(2014)、松任谷由実、秦 基博、JUJU、ストーリーテラー:大沢たかお(2015)、でんぱ組 Inc、Little Glee Monster、アースラボ所長:スプツニ子(2016)、Peabo Bryson、石井竜也、大黒摩季、小柳ゆき、賈鵬芳、野沢雅子(2017)、SPITZ、sumika、SUNNY CAR WASH(OA)(2018)